

誰も教えてくれない木のホントの事

伐木之契

くぼつぼくのちぎり

2020年4月発行

発行 三浦製材(株) 木材部

Vol. 4

「伐木の契」とは、中国の詩集である「詩経」にのっている、「伐木」という題名の詩が由来で仲間を求めて鳴く鳥のように、人も友人・仲間を求めるところから、とても深い友情を指す言葉です。建築に欠かせない木。木材のパートナーでありたいとの願いからこの情報紙のタイトルと致しました。

前回の「木の勉強会」は延期。

前回の勉強会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為延期致しました。今後の「木の勉強会」の開催につきましても、一旦無期限で延期致します。別途、Eメールでの勉強会の配信等検討しておりますが、決まり次第改めてご連絡致します。

また、今回からの「伐木之契」は、暫く配達して頂く配達員の方にも配慮し送付を止め、弊社の用上で公開、その他での配信に切り替えます。

本来、「伐木之契」は、勉強会で勉強する内容の一部を記事とし勉強会で深掘りして木に係わる勉強をしていこうという趣旨の物でしたが当面、木の勉強会の深い内容まで記事としてお届け致しません。

本当に「木は生きていますのか？」

よく自然素材を扱う工務店さんが「木は生きていますから」と発言されていますが、本当に生きていますのか？って疑問がありますか？

実は私も木は生きていますか？と悩んでいました。生物学的に言えば製品として乾燥した木は死んでいるのです。よく「木は呼吸するので生きています」と言われますが、その理由についてはまた次回という事で。

では山に生えている樹木は果たして生きていますのか？？？？またまた不可解な問いをしましたが、答えはノーなのです。驚かれるかもしれませんが、樹木の「樹幹」と呼ばれる部分はかなりの割合で死んでいるのです。

1本の木(樹木)があったとします。このうち生きています部分はどこかと言えば、葉は光合成に欠かせない部分なので生きています。

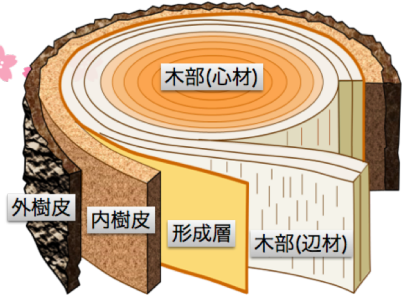
根も土壌内から水と栄養分を吸い上げる為に必要な部分なので、やっぱり生きていますと言えます。

では樹幹はどうかと言えば、結論は死んでいると言われています。これはあくまでも生物学的な見解なのですが。形成層が外側に分裂して創り出す樹皮のうち、内樹皮は生きています。外樹皮は死んでいます。これは核やミトコンドリアと言った細胞の内容物が消失しているのが理由です。樹幹の形成層は細胞分裂を行い木を成長させる部分なので生きていますが、辺材(白太)は分裂後しばらくは生きていますが、リグニンの沈積に伴って抜け殻(細胞壁)だけを残して死んでしまします。残るは心材(赤身)ですが、辺材が死んでいく事から察すれば死んでいる部分と解釈されています。何度もいいですが、これはあくまでも生物学からの見解で、私たち木材や建築に携わる者にとっては、「木は生きています」と言いたいのですし、言えると思っています。

最後になぜ樹木は自らの細胞を死滅させているのかと言えば「樹木にとって生かしておく必要がないから」です。大木の重量を支え風などの外力に対向するには強い細胞壁があれば良いわけで、細胞が死んでいても問題はないと判断しているからです。もう一つ、細胞を生かしておくためには多大な養分が必要であり、成長に必要な部分は生かし、生きていない必要のない部分は死滅させるというシステムによるものです。大径木の中心部分に大きな洞が出来たのを見かけますが、なぜ樹木が枯れないのかは、もともと死滅している部分が腐朽して穴があいただけなので、樹木にとっては大きな問題ではないからです。

如何でしたか？木は生きていますのか死んでいるのか？こんな事を科学的に判断するのはナンセンスとも思われるかもしれませんが、色々な側面から判断するのも必要かと考えます。

【参考文献】 日刊木材新聞社



三浦製材木材部 HP QRコード



+e.wood 三浦製材株式会社 MIURA LUMBER Co., Ltd.

■建設業許可番号：京都府知事許可(般27)第36187号 ■宅地建物取引業：京都府知事(3)第12252号

【本社】京都府亀岡市東別院町南掛落合6-1【TEL】0771-27-2015

木材部のホームページをリニューアル！最新情報はこちらで！